



R4.5.19

## 今月のキーワード

自己調整する力を育む

「思考・判断・表現」の評価

新年度になり1か月が過ぎ、子どもたちも授業スタイルやALTの先生方に慣れてきた時期だと思えます。5月からは学校行事も多くなり、日々の授業の準備もお忙しい中ですが、毎時間の授業のねらいや振り返りを大切に、子どもたちが自主的に学びに向かえるよう、指導・支援をお願いいたします。また、先月号で、校内における学習到達目標の周知についてお願いしたところですが、子どもたちにとっても1年間という長いスパンでの目標と振り返りができるよう、学習到達目標の共有をよろしくお願いいたします。

## 自己調整する力を育むために

観点別評価の1つである「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際に、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」を見ていく必要があることは周知の通りです。

ただ、授業の中で、どのような場面で見取っているかは、日頃意識されていないことが多いのではないのでしょうか。

「自らの学習を調整しようとする力」(自己調整力)を育むためには「自らが選択できる機会を与える」ことと「自らの学習を調整する場面を設定する」ことが有効であると言われています。(初等教育資料2022.3月号より)。以下、日頃行っている授業を例に、**選択**、**自己調整**という2つの視点と**タブレット**端末の利用の面から考えてみます。

例：好きな季節について伝えよう

### ① ねらいを共有する。

○デモンストレーションを見る。またはデジタル教科書を使って発表の仕方の例を見る。

タブレット

○ねらいの提示後、個人目標を考える。

例：原稿を見ないで話す、メモを見て話すなど、個人の目標を考えさせる。

選択

### ② 個人で練習をする。

○分からない発音などは、例として示された動画で確認をする。

タブレット

○動画で記録した自分の発表を見る。改善したい点について修正を行う。

自己調整

### ③ ペアで伝え合う。

○友達と互いの動画を見合い、アドバイスを送り合う。

タブレット

○互いの発表を聞いて、よい点や改善する点について伝え合う。

自己調整

○どのような点を修正していきたくかを考え、再度互いに伝え合う。

選択

### ④ 振り返りを行う。

○本時で達成できたこと、できなかったこと、これからやってみようことなどを振り返る。

自己調整



「自己調整」の機会を充実させるためには、ねらいを示すこと、そして**自分ごと**としてねらいを捉えさせることが大切ですね。タブレット端末を活用することで、子どもの学びの幅を更に広げていってください。



## 「思考・判断・表現」を評価するために



「思考・判断・表現」を評価する際にはコミュニケーション活動の目的や場面、状況を設定することが必要であることは、これまでも共有してきたところです。

例えば、言語活動「お気に入りの場所を紹介しよう」では、「初めて学校に来校した ALT に」「校内をよく知ってもらうために」「ALT の興味関心を踏まえて」など、目的や場面、状況を設定し、子どもたちに「どのようなことを伝えるか」を考えさせて（＝思考・判断）、紹介する活動を行う（＝表現）ことなどが挙げられます。日々の授業で、「目的や場面、状況」の設定については様々な工夫をされていると思いますが、改めて以下の点について確認したいと思います。

○活動を行う際に、「未来表現を使って会話してみよう」などと使用する文法事項を指示していませんか。

目的や場面、状況に応じる、ということは、**子どもたちが自ら判断してどのような言語材料を使うかを決めること**です。

「〇〇を使って」という指示をするなど、**使用する言語材料を示す活動は「知識・技能」を評価する活動**となりますので注意しましょう。

○目的や場面、状況の設定が生かされた問いや出題となっていますか。

例えば、「アメリカに住む友だちから下のメールをもらいました。このメールを読んで、その内容に合うものには T を、合わないものには F を解答欄に記入しなさい。」というような出題。これでは、「あなたはアメリカに住む友だちからメールをもらった」という場面が設定されていなくても、やることは変わらない。

（初等教育資料 2022. 5 月号 P18 より抜粋）

このように、**単に「目的・場面・状況」を設定すればよいわけではない**ことを確認しましょう。

上記例を、「思考・判断・表現」が評価できる問いにするには、**相手が必要な情報や知りたいことなどの情報を踏まえたうえで、「このメールにあなたならどのように返信をしますか」**などの出題方法が考えられます。



日本語でコミュニケーションを図る際に、目的や場面、状況に応じた聞き方、話し方、読み方、書き方をしているように、英語でも同様のことが言えます。

別の言い方をすると、目的や場面、状況を変えることで様々な言語活動が可能になるということですね。



### ALT 研修

・5月12日（木）、市内学校11名のALTが集まり、市役所にてALT研修を行いました。研修では、「英語でコミュニケーションDay」の内容や、日頃行っている活動についての情報共有をしました。「英語でコミュニケーションDay」については、6月下旬から第1回目が始まります。各学校での活動の様子など、今後も情報発信していく予定です。

